



日本三景の一つ「天の橋立」を展望

変わらない主の契約

昔の日々を思い出し、代々の年を思え。あなたの父に問え。
彼はあなたに告げ知らせる。長老たちに問え。
彼らはあなたに話す。

申命記 32章7節

ミッショント・宣教の声 主幹
黒田 穎一郎



英国の元首相チャーチルは、「歴史を忘れた民族に未来はない」という名言を残しました。神は上記のみことばのように言われ、歴史を覚えるよう強調しました。それは私たちが歴史を覚えて、同じような失敗や苦しみを再び繰り返さないよう願つておられるからです。素晴らしいことは「記念」として覚え、不幸なことはその痛みが繰り替えさないように「記憶」とすることです。イスラエルの民の歴史を記憶し、祝福の歴史を再生産させることは大切です。では、どうすれば絶望の歴史を断ち、祝福の歴史を始めることができるでしょうか。

悔い改める信仰

ヨセフの生涯を思い起こしてください。彼が歩いた道は多くの傷と苦しみに満ちていました。しかし神は「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちちは知っています。」(ローマ8:28)としてくださいました。ヨセフにとって、兄たちは自分を殺そうとした人たちでした。しかし神はヨセフの痛みの過去を、兄たち、家族、民族、そして国を救うために、私たちの良き先人として歴史に残されました。つらい過去の歴史を変えるためには、「悔い改める信仰」が

必要です。みことばを聞いても、かたくなな心を悔い改めようとしない自分が存在します。しかし、そうしてこそ変えることができます。過去の傷や不幸は、神の御心ではありません。そこで私たちは心を静めて、主の前に出るならば、神は私たちの心の目を開いてくださり、過去を再解釈させてくださいます。

神に期待する信仰

神はみことばを聞き、約束を信じる聖徒の信仰を祝福してくださいます。自分が願うことより、神が願うことを優先しましょう。神は信仰のとおりにしてくださいます。今、自分が置かれているもどかしい現実だけを見るのではなく、神のみことばと約束によって期待することです。多くの信仰の先人たちとは、祝福の歴史を夢見て歩みました。私たちは悔い改める信仰と、期待する信仰をもって歩もうではありませんか。今、置かれた場所に安住するのではなく、新しい祝福の歴史を綴っていきましょう。それには先ず、主の前で「心を静める」ことです。「静思の時」を持つことは、聖徒が受ける祝福の始まりです。神のみことばの前に心静め、信仰の先人たちの歩みに想いを寄せるならば、主のみ声が聞こえます。

JOY JOY キャンプ

8月初めにこの原稿を書いていますが、私達は1週間後に「JOY JOY キャンプ」を控えています。20数年続けているこのキャンプはとにかく楽しい中で、楽しいだけじゃない、大切な神さまのメッセージを伝えるために、地域の日本語を使う子どもたちに広くPRして、開いてきた5日間の「デイキャンプ」(通いのプログラム)です。お借りしている教会の体育館にセットを造り、トンネル迷路を張り巡らして、毎日、エキサイティングな探検をしながら、その中で聖書のメッセージを分かち合ってきました。参加者の中でいつも教会に来ている子どもたちはほんの一握り。教会は初めてという子たちもたくさん来るプログラムでした。

しかし、これも、コロナの影響をまともに受けて、最初の年は中止となりました。その代わりオンラインでのアクティビティーに挑戦、2年目は教会に集まって、午前中だけ人数限定で。そして、3年目はランチ持参で午後までに延ばしてきました。今年もランチ持参は続きますが、トンネル迷路も一部復活で!と準備してきましたが、夏の間、今まで我慢してきた日本帰国をする御家族が多くて、申し込みは今ひとつ伸びませんでした。それでも、いつもは教会に来ない18人の子たちが参加します。9月号が発信される時にはすでにキャンプは終わっていますが、キャンプに来た子たちが続けて教会につながることができるようにお祈りください。



2019年、コロナ前の「JOY JOY キャンプ」

私達はまた新しい気持ちで、教会の存在を知っていただくこと、教会に一人でも多くの方々につながっていただくことを考えています。8月の最後の日曜日には近くの公園での「ピクニック礼拝」、9月や10月にも地域コミュニティーや日本語を使う方々とのつながりを持って行くためのイベントを検討中です。また11月のサンクスギビングや12月のクリスマスも多くの方々に教会においていただくチャンスになるのではないかと思い、祈り備えています。どうか、この秋から冬にかけての教会の歩みが祝福されて、新しく教会に集う方々も起こされますようにお祈りください。

それでいいのか

そんな中で、私自身が主から示されている事は、一つには先月号の投稿にも書かせていただいたように、私達自身が聖霊に満たされて、造り変えていただいて、用いていただくとの大切さです。そして、もう一つは、私達が出て行くことです。実は2年前の9月、私達の家族が住んでいる牧師館に空き巣が入りました。夜、教会の集まりから帰ってきたときに、玄関

ニュージャージー日本語リスト教会

錦織 学 牧師

が空いていて、家の中が荒らされていたのです。幸い実害は大きくはなかったのですが、自分の生活空間の中に勝手に入られて、荒らされた精神的ダメージは大きなものでした。私達の住んでいる地域はニューヨークの郊外のとても治安の悪い地域で、今までは昼間でも家にいるときには玄関の鍵をかけていないほどでした。しかし、この件で私自身も、いつも玄関の鍵をかけるようにしましたし、教会の役員会では、牧師館にセキュリティー・システムを入れて、不審者が侵入したときにはアラームが鳴るようにしてくださいました。そのように、自分たちの家を固めて、もう大丈夫、と思ったときに、私の心中には「自分と家族の身を守って、砦を造って、それで終わりでいいのか」という思いが湧いてきたのです。私達はこの世に出て行くためにここに生かされている、その使命に立たせていただきたいと思わされました。

新しい一步

それから2年、今まだ、そのために何ができるだろうと求めている最中ですが、一つ、自分に新しく「出て行くところ」が与えられました。それは教会のメンバーから誘われて、参加するようになった合唱団です。昨年の夏から、NY男声合唱団に個人的に加わって、練習に励んでいます。忙しくて練習にもいけないのでは…と思っていましたが、入ってみると指揮者の方が近所にお住まいでのご自宅で個人的に、また小グループで指導してくださる機会を持つてくださっています。本当に小さな一步ですが、それによって新しいつながりが生まれつつあります。9月の教会のイベントにはこの合唱団も協力してくださる事になっています。

学校や職場、地域社会、キリストの証人とされた私達一人一人が、与えられた場所でその使命を果たしていく、そして更に一步踏み出して、新しい場所を求めていく、その大切さを思われています。私たちの教会の第2代目の牧師であった石賀誠牧師は「集める教会から集まる教会へ、集まる教会から出していく教会へ」と掲げて牧会をされたと伺いました。どうか、集まって終わりではなく、私達が聖霊様によって造り変えられ、この世に出て行くことができるよう、お祈りください。

(つづく)

伝道、
プレゼントにも
おすすめです。
おすすめです。

聖書の集い・連続メッセージ
「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

第1巻～第10巻 刊行 中綴じB6サイズ ¥500(税別)
ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

その時、
わがたましいは歌う
ミッショング・宣教の声
主幹 黒田 祯一郎

目が見えなくても

私たちドイツからの伝道チーム一行はシンゲレイでの滞在の後、オルヘイのヴィオリカ姉妹を訪ねました。彼女は幼い頃から目が不自由ですが、主イエス・キリストを信じる喜びが生きる力となっています。点字ノートを使い、喜びと勇気をもって信仰の歌を賛美しています。彼女は私たちと祈りの課題を分かち合い、聖書のことばを引用し私たちを励ました。彼女にみことばをどのように暗記しているかと尋ねると、彼女は「オーディオ聖書を使い、夜眠れないときに聞いていると力が湧き、他人を励ますことができる。」と返答しました。彼女は旧式携帯電話器を持っており、兄弟姉妹の電話番号が登録していました。「毎日、いろいろな人に電話し祈祷課題を聞いて、彼らを覚えて一日中祈っている。」と言いました。

私たち伝道チーム一行がオルヘイを去ろうした時、彼女はこう語りました。「皆様の訪問は、私にとって特別な神からの贈物です。クリスチャンの訪問は、私にとってはいつも喜びです。神は小さな私をお忘れになられません。」



点字ノートを読みつつ賛美するヴィオリカ姉妹

人はどのようにして救われるか

首都キシネフに向かう途中、私たちはモルドバ正教会の修道院前を通りました。地表には立派な教会堂があり、地下には修道士たちの部屋がいくつもあります。修道士たちはそこで謙虚さを学び、より良い人間になるために罪を償う「とりなし」の祈りをしています。修道院長はテラスのような所を見せてくれました。観光客や巡礼者が修道院を訪れ、彼らは神の慈悲を願いコインを隙間に入れていました。このような場面に出会うと、聖書の救いの道を再確認し感謝しました。

むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。

また、人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、この世に寄留している時を、恐れつつ過ごしなさい。ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、

尊い血によったのです。

キリストは、世界の基が据えられる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました。あなたがたは、キリストを死者の中からよみがえらせて栄光を与えられた神を、キリストによって信じる者です。ですから、あなたがたの信仰と希望は神にかかっています。

(ペテロの手紙 第一 1章 15-21節)

移動診療所

私たちはその後首都キシユノフに到着し、キリスト教診療所「インマヌエル」を訪ねました。モルドバの多くの人々は、貧しさから治療を受ける余裕がありません。そこで同診療所は移動診療所を設けて、医師が現地に赴く際には必ずトラクトや集会案内を患者に渡すようにしています。患者は治療を受けるだけでなく、後日教会の礼拝(集会)に参加するよう導かれています。この移動診療の働きは始まり、福音を伝える上で効果的です。どうぞお祈りください。



インマヌエル診療所



所長のオレギニア医師(右)とスタッフ

ウクライナ避難民

私たち伝道チームはドイツに向かう前、ウクライナ避難民のための2つの公営施設を訪れました。ひとつは元映画館を難民施設に改装した所です。2022年春から夏にかけて、ウクライナから50万人以上の難民が小国モルドバに入りました。大半は最終的に西側に移動しましたが、首都に取り残された人たちもいます。そのため、元映画館に80人以上の難民が収容されていました。子ども連れの家族のためには、いくつかの部屋も用意されました。しかし部屋数があまりにも少ないので、個々の家族は仮設の間仕切り壁を作りプライバシーが保護されるよう配慮されていました。

仮設の間仕切り壁だけですが、避難民は最低のプライバシーが保護され、屋根があることに感謝していました。現地のキリスト教会のイワン・長老は、数名の兄弟姉妹と一緒に、毎週避難民宿泊施設で集会を開く許可を受けました。さらに西側のキリスト教支援団体は、避難民のためのセミナーも開催しています。避難民は自由に利用することができます。女性たちは2~3ヶ月の短期研修を通して、菓子職人、美容師、裁縫師などの仕事の基本技術を学ぶことができます。その後、仕事を見つけようとする助けとなります。モルドバのクリスチャンたちは、避難民の宿泊先を探したり、救援物資の配給などで多くの労を取っていました。新約聖書や伝道用小冊子『運命のイエス』等も、ウクライナ避難民に渡していました。どうぞ、この大切な働きを祈りお支えください。

(つづく)

娘のための道標

北朝鮮から中国に渡った13才の少女キム・アラは、母と母の中国での夫である継父、そして、二人の間に生まれた異父妹と4人で暮らしていました。中国人の継父はアラを学校に行かせてくれ、半分血の繋がった妹は本当に可愛くて、中国での穏やかな暮らしが数年続きました。アラと母が中国でどんなに定着しても、彼女たちが北朝鮮国家に背いた犯罪者という烙印は消せず、公安に見つかれば、即刻強制送還となり、それは死よりも辛い地獄が待っていました。いずれ見つかる日が来ると悟った母は、アラと中国を出る決意をし、継父も母を嫁として買い取ったにもかかわらず、彼女たちを中国から出すことにしました。中国から東南アジアを渡って遠回りをする大韓民国への道は険しく、危険に満ち、生きてたどり着く保証はありませんでした。先ずは母が一人で行き、娘のために道標を作るべく、知人の助けを借りて中国を出ました。アラは再び母と別れ、異国之地で不安と孤独に耐えるしかありませんでした。

ただ祈りだけ

大韓民国を目指して旅立った母とは、その後1年間消息が途絶えました。母が生きているのか、それとももう死んでいるのか分からず、アラの心は張り裂けそうでした。そんなアラに一人の朝鮮族の高齢女性との出会いがありました。彼女はアラにイエス・キリストについての話をしてくれました。神の御子なるイエス・キリストが2000年前に、自分を含む全ての人間の罪を十字架で背負うためにこの世に来て下さった神の愛を初めて聞きました。その神なる方は復活され、今日も生ける真の神としてここにおられ、祈りを聞いて下さる方であると知りました。その女性は、アラに天の希望とイエス・キリストの御名によって祈ることを教えました。アラは彼女から教えられた通り、毎日真摯に祈るようになり、祈りだけが彼女の支えとなりました。神はそんな少女の祈りに応えられ、大韓民国に到着した母から連絡が入り、母の無事に感謝が溢れました。また、母もアラに電話越しで、イエス様の御名によって祈ることを教えました。祈りは彼女に勇気を与え、母が命を賭けて作ってくれた道標を頼りに、中国から東南アジアを経て、無事に大韓民国に到着し、アラも多くの神の奇跡を体感しました。

華やかな世界への代償

アラは大韓民国で市民権を回復させ、18才になった若い彼女にとって、この国で適応して生きることに時間はかかりませんでした。アラは母と2人で暮らしていましたが、中国の継父が異父妹と共に大韓民国にやって来て、彼らも韓国籍を取得し、再び4人の暮らしが始まりました。一家は脱北者たちが集まる教会に出席するようになり、アラはその教会の牧師夫妻の導きによって、イエス・キリストを救い主として心に迎えました。彼女は牧師夫妻から弟子訓練を受けるだけでなく、彼らから実の娘のように愛を注がれました。そんなアラはある時、友人の勧めで「いま会いに行きます」

という脱北者のトーク番組(TV)に出演することになりました。その出演をきっかけにアラの美貌が注目され、彼女は韓国芸能界に身を置くことになりました。モデルや女優として、ドラマやバラエティ、映画撮影など、彼女の生活は一変し、多忙を極めました。顔立ちは美しくとも、北朝鮮では物乞いのように生き、中国では人目を避けるように生きてきた彼女にとって、スターとして人々からの熱い視線を向けられることはあまりにも大きなギャップがありました。この華やかな世界に生きる代償は、アラに様々な誘惑と混乱を与え次第に最も大切な創造主なる神から遠ざかっていました。

それぞれの場所で用いられる器たち

芸能界での仕事は、アラの優先順位を変えていき、次第に教会からも足が遠のきました。しかし、荒波に揉まれて沈んでいくアラの手をしっかりと取ったのは、主イエス様とその教会の牧師夫妻でした。夫妻は彼女を心配し、変わぬ愛をアラに示し続け、昼夜を問わず彼女のために心碎いて祈り続けました。時には彼女の不足と過ちを補い、指導し、彼女がさまようたびに、彼女を迎えて神の真理へと導きました。主イエス様はそんなアラを愛し続け、彼女のために御座から立ち上がり、とりなして下さるお方でした。牧師夫妻の愛と祈りに目覚めたアラは、再びイエス様と目を合わせて生きていく道を選びました。やがて、その牧師が病に倒れ、志半ばで天へと凱旋して行きました。彼は生命尽くるまで、神から与えられた使命を全うし、アラを含む多くの脱北者たちに神の愛を注ぎ続けました。残された妻は悲しみの中でも、夫の使命の道を引き継ぎ、アラの良き理解者であり続けました。アラは現在も芸能界で活躍しながら、自分の置かれた場所で神の栄光を表す器として働いています。そしてアラの心に再び祈りの炎が再燃し、「いま会いに行きます」の番組メンバーや南北の若者たちと一緒に祈祷会を開き始めました。芸能人たちであっても北朝鮮のために、そして南北統一のために、毎週定期的に熱く祈り合う彼らの姿に聖霊の炎が臨んでいます。その後、アラは故郷に残った妹とも連携することができ、彼女にも福音を伝え、援助し続けています。



韓国芸能界で活躍する
キム・アラ女士

私たちがどんなに弱く、欠けだらけの器であっても、神はまるでお気に入りの器を使うかのように、それぞれに合った場所で、私たちを用いることを楽しみにして下さっています。その器である私たちは時にはひどく心汚れ、あまり役に立たないように思われるかもしれません。けれども、私たちの造り主なる神は、その御手の中で生かされている私たちの存在自体を喜んで下さっているお方です。

主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。

(ゼパニヤ書 3章 17節)

(次号につづく)

ウクライナ

7月20日、ウクライナ南部オデーサに23日未明、ロシア軍による大規模なミサイル攻撃があり、正教会の救世主顕栄大聖堂が破壊され火災が発生しました。港湾施設や住宅も被害を受け、地元知事は1人が死亡し子どもを含む19人が負傷したと明らかにしました。「黒海の真珠」と呼ばれるオデーサの歴史地区は、今年1月、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産に登録されました。ウクライナ外務省は攻撃を「戦争犯罪」と指摘し、ゼレンスキーダン領は「ロシアの悪に弁解の余地はない」と述べました。プーチン政権は対ロシア制裁が解除されないことに反発し、ウクライナ産穀物の輸出合意の履行を停止し、輸出拠点があるオデーサなどを連日のように攻撃しています。しかしロシア国防省は、ロシア軍のミサイルは歴史地区を避けており、大聖堂の破壊はウクライナ軍の地対空ミサイルの落下によるものだと主張しています。

多くの市民が後片付けを手伝いました。今回被害を受けた歴史的教会は、ウクライナ正教会(UOK)です。神の家が、かつての独裁者ヨシフ・スターリン(1878-1953)によって破壊されたように、ロシアのプーチン大統領によって破壊されたと言われています。独裁者スターリンは1827年に完成した教会を、1936年に破壊しました。現在の大聖堂はウクライナがソ連から独立した後(1991年)に、再建された教会堂でした。どうぞお祈りください。



破壊された大聖堂



後片付けするボランティア市民

ところで、ウクライナ議会は、クリスマスは1月7日から12月25日に祝うことを決定しました。メディア報道では、これまでユリウス暦を守り続けてきましたが、「ロシアの伝統」から距離を置きたいゼレンスキーダン領が提案した法案が可決されました。ウクライナ人口4千400万人の約70%がウクライナ正教徒で、約10%がギリシャ・カトリック教会に属し、プロテstantは1.5%です。中でもバプテスト派は最大グループで、約12万5千人の会員がいます。

イラン

イランでは、イスラム教から改宗した50人以上のクリスチヤンが逮捕されました。インターネット情報サービス「プレミア・クリスチヤン・ニュース」と「リリース・インターナショナル」(いずれもロンドン発)の報道によれば、イスラム共和国治安当局は、キリスト教改宗者を国家の犯罪者とみなし取り締まりを強化しています。警察官がクリスチヤンの家庭に入り込み、子どもの前で両親を逮捕したと伝えています。拘束された人の数は、正確ではありませんが70となる可能性もあります。シア派が支配するイランでは、イスラム教徒が宗教を変えることは許されていません。どうぞお祈りください。

ドイツ

衝撃的で悲しい現実です。ニュルンベルクでは、プロテstantの信徒がクリストファー・ストリートのディクラブと協力し、聖エギディエン教会ホールでポルノ写真を展示しました。神への畏敬の念は全く消え失せ、どうしてこれほどまでに沈んでしまったのでしょうか。現在のドイツ社会では、「プライド・ウーク」や「クリストファー・ストリート・デー」(CSD)のパレードが多くの都市で行われ、プロテstant教会は各地でその渦中に置かれています。



教会内にある写真

ニュルンベルクでは、7月21日から旧市街のプロテstant聖エギディエン教会で、映画監督ローザ・フォン・プラウンハイムのポルノ写真が『Jesus Loves』というタイトルで展示されました。バイエルン放送(BR)によれば、プラウンハイム女性監督(80歳)は教会での展示のために特別に作品を制作しました。その写真是あまりに衝撃的で「反吐」(へど)が出るほどである、とキリスト教週刊誌「イデア」は報じました。あまりに酷い写真でとても紙面に載せられません。

ニュルンベルクでは、子どもたちは教会に行くだけで、そのような映像を見ることができます。そこに成人向けと記されていますが、逆に子どもたちの好奇心を掻き立てることになります。

同教会のホームページは、この展覧会について肯定的評価を記しています。創造神の前に高慢となった聖徒と教会の姿を見ます。神への神聖さに対する畏れと敬虔さは、完全に失われてしまいました。教会とCSD運動の協力は、ニュルンベルクだけで行われているではありません。7月22日、CSDパレードは首都ベルリンでも行われました。CSDはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、インターセクシュアル、クィアの人々の権利のためのデモを望んでいます。このイベントの前夜、アレクサンダー広場の聖マリア教会では、多宗教礼拝が行われました。毎年ベルリンで行われるCSDのパレードには、不穏なフェティッシュな服装や完全に素っ裸で通りを歩く人々や、公衆の面前でお互いに愛撫する男たちの姿があります。明らかに行き過ぎであり公に批判することなく、このイベントを支持する人々がいることが問題です。かつての宗教改革者の国で、神を恐れる聖徒と教会は大試練の渦中に置かれています。どうぞお祈りください。

南スーダン

南スーダン・ポチャラ州では7月に入っても、4月以来雨が降っていません。そのため種蒔き時期に種が蒔けず、草木は暑さで枯れています。ここはエチオピアとの国境にある湿地帯のため、車での移動は不可能です。この地方に行き物資を供給する手段は、週に一度の国連の飛行機によります。昨年7月は川が氾濫し作物が流されました。これまで雨季は3月中旬に始まり9月まで続きましたが、今年は異常気候で何が起こるかわかりません。この地方は干ばつと洪水が交互にやってきます。

2011年7月9日、南スーダンはスードン共和国から独立宣言しました。独立前は数10年にわたる内戦がありました。しかし2013年、再び内戦が勃発しましたが、2018年に紛争当事者は和平条約を締結しました。国連によると、700万人以上の住民が人道援助に依存しています。南スーダンは人口約1億3千600万人。キリスト教徒は約61%、ムスリムは6%です。どうぞお祈りに覚えてください。

中國

中国共産党は、国民をイデオロギー的に一列に並ばせたいと考えています。この目標の邪魔をする者は誰でも、圧力と迫害で脅かされることになります。次は国際宣教団体「オープン・ドアーズ」からの最新動向レポートです。

中国共産主義は国民に絶対服従を要求し、生活のあらゆる分野を「中国化」すること、つまり中国の価値観や規範に合わせることを重視しています。中国の価値観や規範、そのためには必要な党の視点に立つ



小学校で毎週行われる国旗掲揚式

「愛国」教育は、国全体に浸透しようとしています。最近、校長は共産党に直接従属するようになりました。各学校には「党細胞」があり、習近平国家主席の社会主義思想を確実に実行することになっています。そして、教師や校長の採用やその指導にも責任を負っています。ジャーナリストのような他の職業は、3年ごとに認定を更新する必要があり、多くのイデオロギー的な質問に答え、中国と共産党を「愛している」ことを証明しなければなりません。

クリスチヤンが持つ自由は何年も前から確実に減少し、教会の決定には公安当局の干渉があります。現在、インターネット上のキリスト教コンテンツは、国家ライセンスがなければ公開できません。そのため、多くのキリスト教の教材は今やネット上で入手できません。さらに5月23日、「宗教問題局」はイスラム教、カトリック教、キリスト教の聖職者に対する照会システムを新しく稼働させました。公式発表によれば、このシステムの目的は「宗教事務の公開と聖職者の識別・管理を促進する」ことです。しかし、これは同時に、多数の未登録の「家の教会」指導者に対する圧力を強めるものもあります。

一見して、システムは教会を保護しているかに見えますが、実際は教会のすべての活動が監視されています。現実すべての活動は監視され、「家の教会」指導者は、「違法宗教関係者」としてレッテルを貼られています。

中国政府は4月、政権に忠実な聖職者であるジュゼッペ・シェン・ビン師を上海カトリック司教に任命しました。実は、バチカンと中国政権は2018年、カトリック教会の指導者を共同で任命することで合意しました。フランシスコ法王は違反にもかかわらず、新司教を事後的に公式承認しました。共産党はますます教会を手先として使うとしています。その一例は、中国東部の浙江省における新たな要求です。その教会は、「共産党を愛し、国を愛し、宗教を愛するすべての宗教の中国化を堅持する」という看板を掲げることが強制されています。

習近平国家主席にとって神は存在せず、実際に望んでいるのは無神論の一貫した教育です。一方、クリスチヤンはイエス・キリストにつながり、中国で福音を広め、より多くの人々に希望を届けています。それにもかかわらず、信教の自由に対する政権の厳しい行動は、クリスチヤンにとって大きな苦難です。教会指導者たちは、いつも厳しい報復や重い罰金、それに教会解体に直面しています。彼らは私たちの支援と祈りを求めています。どうぞ、お祈りください。

国際人権委員会(IGFM)とキリスト教出版社IDEA社は、中国人の鄧燕祥牧師を「8月の囚れ人」に選びました。同時に捕らえられた彼と他の3人のメンバーのために、世界に向けて祈りを呼びかけています。5月24日、数10人の治安部隊と公安関係者が広東省の聖嘉教会教会と隣接する訓練センターを家宅捜査に入り、教材等を押収しました。そして教会リーダーと3人のスタッフの身柄を拘束しました。告発理由は「違法な活動」です。それ以来、彼らは佛山の南海区刑務所に拘留されています。法律で制限されている公判前勾留の最長期間はすでに満了しています。中国において、宗教団体は共産党による厳格な管理下に置かれています。そのため、多くのクリスチヤンが国家に登録されていない集会を開き、献金を集めて布教活動にあてているとし、当局は多くのケースで「違法なビ



鄧燕祥牧師と夫人

ジネス」とみなしています。推定では、中華人民共和国には1億3千万人のクリスチヤンがいると言われます。どうぞ、鄧燕祥牧師と3人の速やかな釈放をお祈りください。

編集後記



- 今夏の日本は、猛暑の連続で危険状態でしたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。専門家の話では、もし この異常気候が続くなら「四季」が短縮し「二季」となるそうです。最大の原因は地球温暖化と言われました。
- 先月から続く「北朝鮮からの叫び」に注目ください。今月のWorld Viewドイツの記事は、非常な痛みをもって書きました。惡の力が日増しに強く感じられます。今こそキリストの福音を届ける勇士が求められます。
- 今月も主の恵みにより、「宣教の声」をお届けできる幸いに感謝しています。また皆様のお祈りとご支援に励まされています。読書の皆様に天来の祝福がありますよう祈ります。感謝。



ミッション・宣教の声
The Voice of Mission

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)
1981年12月初版発行(毎月1回1日発行)

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP 関西センター 5F
TEL 06-6226-1334 FAX 06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp URL http://vomj.jp/

The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT



■郵便振替口座 00940-3-301623
■銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132 「ミッション・宣教の声」

Bank Address : 59-2 MIKUNIGAOKA-Miyukidoori,Sakai-ku,
Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041